



とはまだ知りません。内容がどうなっているのか、調査をしてからでないと、まだなんとも言えません」

温厚な人柄そのままに、発言もまたたいへん慎重である。水俣病患者互助会が、「あつせん」

「厚生省から処理委員会の委員になつてくれと頼まれたとき、大学の仕事もあるし、中労委の公益委員の仕事も忙しくて、これは責任あるあつせんがであるかと危ぶんだのです。しかし、私は公害には深い関心をすつと持つていたし、水俣病のことも聞いてはいました。生



水俣病補償処理委員会の座長になった夫達氏

三好重夫

委員会の座長になった夫達氏

三好重夫

法学博士、成蹊大教授、中労

委公益委員。東京地裁判事を長

いじめ、盛岡地裁所長をした

こともある。四十年判事退職。

その余技である日本画はしらう

の西題を、四十年近く前に、専

門的にやりとりやりましたし、実

判官は結局和解に持ち込む以外

ドは非常におそい。船本地裁や福岡高裁の実情は知りませんが、東京地裁などは二十いくつもまたたいへん慎重である。水

市当局とも会いたいと書いた。

「私自身はできることなら、あつせん案を出すというより、会社と患者側の意見をよく聞きながら、その過程で歩み寄りをしてもりりと納得していただきたいと思っています。他の二人、三好重夫さんは京都府の知事をやられた地方制度のベテランですしね。笠松盈東大教授は労働災害の段階補償にも詳しい方ですから双方の調和した点が出せるでしょう」

人間がかかることがあります。最高裁までいふとなると、もし訴訟に勝つとしても裁判費用で使い果たす恐れが多分にあります。私はその点を非常に心配します」

ひとつの面で、訴訟しても裁

判官は結局和解に持ち込む以外

が、必要があれば水俣にも行つ

るとしてもいま裁判のスピードは非常におそい。船本地裁や

東中野三丁目。（東京支社）

際に裁判をやりたひもありま

す。水俣病について具体的なこ

とでも聞いてはいました。生

命、身体を侵害されて補償問題

が起るのは、典型的には交通

事故ですが、そのようなケース

から広げて、一般的に補償關係

の問題を、四十年近く前に、専

門的にやりとりやりましたし、実

判官は結局和解に持ち込む以外

が、必要があれば水俣にも行つ

るといふのです。訴訟には

調査はこれから始まるわけだ

よし」と、「私が実務を経験した

たす恐れが多分にあります。私

はその点を非常に心配します」

との城をとうに脱ぎ、すでに個

展も十一年、豊かな人間の幅を

持つ。六十九歳。東京都中野区